

弘前大学ボランティアセンター (HUVVC)

News Letter

創刊号

発刊にあたって



弘前大学ボランティアセンター長 大河原 隆

東日本大震災を機に活動をはじめた弘前大学ボランティアセンターも5年を経て、今年度からは野田村との支援交流活動を中心としていた活動から学習支援の他、新たに活動の幅を広げることとし、毎年度末に発行していた活動報告書をニュースレターの発行に切り替えることにいたしました。

本ニュースレターの発行に当たっては、台風10号による豪雨で被災した岩手県内の久慈市や岩泉町等において緊急支援活動を行うことで創刊が延びておりましたが、地域や被災地での活動等、自然環境の悪化から頻発する様々な自然災害に対しても、東日本大震災の経験を生かし関わる等、本センターの活動の重要性を多くの皆さんに知っていただき、ご理解を頂くとともに、皆様方のご支援ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

岩手県久慈市支援活動報告(2016年9月17日)

当初、9月17日に行う活動は、台風10号で被災した久慈市の支援活動の予定でしたが、急遽岩泉町の緊急支援活動が入ったため、参加者を久慈市と岩泉町に分けてそれぞれの活動を行うことになりました。

6時30分に、市民20名、学生17名、教員2名と同行取材をしていただいた東奥日報の記者1名の計40名で弘前大学を出発し、道の駅おりつめで久慈市チームと岩泉町チームに分けられました。ここでは、久慈市のボランティアの様子を中心に報告をします。

おりつめから久慈に向かったのは、市民17名、学生8名、記者1名、教員1名の合計27名でした。久慈市の災害ボランティアセンターに到着すると、すでに多くのボランティアが集まっていました。この日は、2か所に分かれての活動になりました。

作業のための道具などをバスに積み込んで、現地のセンターの担当者2名を乗せてバスで現場まで移動します。15分ほどバスに揺られたところで、最初のグループ10名がバスから降

りました。もう一つのグループは、それからさらに山道を進んでいき、ダムを通り過ぎてしばらくしてからようやく現場に着きました。30分程度バスに乗っていたでしょうか。終了後のバスの中でも一部の参加者が言っていました。当然久慈市の中心部で活動をすると思っていたので、いささか面を食らいました。

現場は、周囲を山に囲まれ、その真ん中に川が流れる地形で、市の中心部から

は大分離れています。数日前まで電話が通じていなかったようで、ボランティアを要請できることも十分に周知されていないということでした。まだまだ手が届いていない場所が多くあるということを感じ知らされた気がします。

私が参加した17名のグループは、個人のお宅の床下の泥上げ作業を中心に行いました。現場に到着した時には、すでに畳などはすべて上げられ、床下が露出した状態になっていました。3部屋あったので、4人ぐらいのグループを3つ作って、ドンドン泥を土のうに詰めていきました。その土のうを一輪車で庭の隅に運び、土のうから出して積み上げていきます。この土のうから泥を出す作業も4人ほどが関わりました。泥の堆積量もさることながら、床下で作業スペースが限られるこ



泥上げ作業の様子



道の駅おりつめでの集合写真

ともあって、なかなか思うように作業は進みませんでした。何とか協力して役割分担を明確化することで作業効率が上がり、午後にはほぼすべての泥を除去することができました。その後、若干時間があつたので、物置周辺や犬小屋の泥を除去する作業を行い、何とか求められた作業を終えることができました。

作業がすべて終わって引き上げる時、ご高齢の依頼主ご夫婦から何度も何度もお礼を言われ、笑顔でバスが見えなくなるまで見送りをしてくださいました。



作業がほぼ終わった床下



積み上げられた泥

もう一つの10名のグループは、道路の泥上げをしたそうです。堆積した泥の量が多く、すべてを取り除くことができなかったということです。それが心残りだったと仰っていた方もいました。最終的には、泥で埋まっていた自動車を掘り出し、何とか使えるような状態にまで泥を除去してきたそうです。

帰りも道の駅おりつめで岩泉町チームと合流し、弘前に戻りました。帰りのバスの感想でも、充実した活動だったという声が数多く聞かれました。
(担当:平野 潔)



至る所に見える台風の爪痕



岩手県岩泉町緊急支援先遣隊活動報告(2016年9月17日)



9月17日、台風10号で甚大な被害に見舞われた岩手県岩泉町で緊急支援活動と、先遣隊として被害状況、ボランティアの活動状況に関する調査活動を行いました。先遣隊の派遣は、本学の卒業生で現在岩泉高校に勤務中の千葉さんのボランティア要請を受けて、今後の支援活動を検討するために実施したものです。

先遣隊には被災状況などを考慮して、東日本大震災の支援活動の経験をもつ市民3名と、体力に自信のある学生7名、教員1名、そしてチーム北リアスと一緒に活動を行っている八戸高専の河村先生が同行してくれました。

弘前大学正門前を出発して、岩泉町災害ボランティアセンターに到着したのは、10時30分でした。九戸インターで高速を降りてからは、国道340号線で岩泉町まで入りました。途中、所どころ道が崩れていて一方通行があったものの、道路の状況は予想より良好でした。岩泉町災害ボランティアセンターから作業指示を受けたのは、今回の台風で最も被害が大きかった安家(あつか)地区でした。災害ボランティアセンターから現地までは送迎バスで送ってくれました。

安家地区に到着した瞬間、被害の大きさにびっくりでした。全壊の家が数多く見えました。また、破壊を免れた家のほとんども家の中は泥で覆われていて、床上1メートル以上が浸水しているような様子でした。すでに多くのボランティアが活動を始めていました。ほとんどの作業は、家の家財道具を外に出して、



溜まった泥を出す作業でした。

学生7名と教員1名で当たったお宅は、安家地区の一番上流にあたる地区で、川に面して建てられたお宅でした。すでに、盛岡や東京、埼玉などから来たボランティアが泥出しの作業を行っていました。我々のチームも作業に加わり、リビングと台所の床下に溜まっている泥を出す作業を行いました。

作業の手順としては、作業をしやすいするために、床の巾木を取り除き、泥を運び出すためのネコ車の足場を作り、泥をかきだすチームと運ぶチームに分かれた作業を開始しました。作業には、他のボランティアと依頼主のお父さんも参加して下さいました。大変な状況の中でも一緒に作業して下さいましたお父さんと、飲み物などをすすめてくださったお母さんの笑顔がとっても印象的で、ボランティアのみんなを和ませてくれました。

作業は昼休みをはさんで、14時40分ごろまで続け、目標とした居間と台所の床下の泥は全部出すことができました。後は床下に石灰をまいて、乾かします。そして、巾木を拭いて、仮の床板を張れば一応生活できる状況までは復旧できると思います。後の作業は次のボランティアに託して、隣の川で汚れた道具や長靴などを洗って集合場所に移動しました。何度もお礼の言葉を言いながら、笑顔で見送ってくださった依頼主のご夫婦に見送られ、帰ってきました。

(担当:李永俊)



緊急募集!10月29日(土) 台風災害支援活動(岩泉町安家地区)

弘前大学ボランティアセンターでは、10月29日(土)に岩泉町での支援活動を行います。「チーム・オール弘前」として活動に参加しませんか?

○日時:10月29日(土)

5時45分 弘前市民参画センター前集合(出発6時00分、帰着19:45予定)

6時00分 弘前大学正門前集合(出発6時15分、帰着19:30予定)

※集合時間は厳守してください。

○活動内容:岩手県下閉伊郡岩泉町安家地区の災害支援活動

※活動内容は当日現地の災害ボランティアセンターからの指示に従います。

撤去、泥あげ、清掃などの支援活動が見込まれます。

準備、詳細など、詳しくは弘前大学ボランティアセンターのホームページと弘前市ボランティア支援センターでご案内しております。

○お問合せ、参加申し込み先

一般・市民の方:弘前市ボランティア支援センター

TEL:0172-38-5595

弘前大学学生・教職員 弘前大学ボランティアセンター

E-mail:huvvc@hirosaki-u.ac.jp

ボランティアセンターのご紹介

東日本大震災発生直後から被災地復興支援のために活動していた「弘前大学人文学部ボランティアセンター」を発展的に改組し、平成24年10月に「弘前大学ボランティアセンター」を設置しました。これまでの多様な活動をご紹介します。

弘前大学ボランティアセンターは、ボランティアを通して学生と地域を繋ぐ役割をもっています。センターのホームページでも活動をご紹介しますのでご覧ください。

また、大学生と一緒に「●●な活動をしてみたい」といった企画をお持ちの方は是非、ボランティアセンターへお問い合わせください。

「チームオール弘前」

弘前市民と学生がひとつになって「チームオール弘前」として、岩手県九戸郡野田村への復興支援・交流活動を行っています。弘前大学ボランティアセンターは野田村との仲介役となり活動の広報、取りまとめをしています。

この活動は定期的に実施しており、震災直後の平成23年度は復興支援を主に、延べ1,394人の学生及び弘前市民が参加しました。平成24~26年度は地域の交流、子ども達の学習支援を主に、延べ1,252人が参加しました。

この活動に興味をお持ちの方は下記までお問合せください。

活動の様子は弘前大学ボランティアセンターのホームページでもご覧頂けます。

・弘前市民の方・・・
弘前市ボランティア支援センター
TEL:0172-38-5595

・弘前大学関係者・・・
弘前大学ボランティアセンター
E-mail:huvvc@hirosaki-u.ac.jp
HP:http://huvvc.net/



発足のきっかけとなった東日本大震災での活動



野田小へのクリスマス



弘前市内での除雪活動

■除雪ボランティア

1月から2月には、弘前市との共催事業として、市内の歩行困難な状態の歩道・通学路等の除雪ボランティアを行っています。

■学習支援ボランティア

平成27年度からは学習支援事業ボランティアを行っています。教育学部をはじめとし、のべ75名の学生が、学部を越えて子ども達と向き合っています。

■外部団体との窓口

外部団体からの依頼を受けてボランティア活動の参加者募集の協力をしています。

今年度では周知依頼5件、派遣依頼6件(10月1日現在)の協力をさせていただきました。



市場まつり派遣

HUVC 弘前大学ボランティアセンターの「目印」をご紹介します

弘前大学ボランティアセンターでは活動の際、写真ののぼり旗とビブス(ベスト)を目印にしています。

Hirosaki **U**niversity **V**olunteer **C**enter

これらの頭文字をとって「HUVC」です。宜しくお願いします!



〈活動報告〉岩手県野田村の支援・交流活動報告(2016年4月16日)



おりつめにて集合写真

2016年度の初めての活動日は前日とはうってかわって素晴らしい晴天のもと、弘前を出発しました。本日の活動は、はじめての試みとなる野田村の市日(朝市)でのコミュニティ茶屋とプレーパーク、棒パンづくりでした。はじめての市日の参加でいろいろと不安もありましたが、不安以上にわくわくする期待感が大きかったです。参加者は、一般市民18名、学生17名、教員1名で、全部で36名でした。おなじみの市民参加者も、初めての学生や一般市民参加者もおられ、継続的な活動で活動の輪が広がっていることを感じました。

バスの中では、簡単な自己紹介と本日の活動に対する意気込みの一言がありました。中には、昨晚はわくわくして一睡も出来なかったという声もあり、楽しい車中でした。今までより1時間早く出発したので、野田村には9時過ぎに到着しました。すでに朝市は始まっており、村民の方が三々五々買い物をして往來していました。

テントを張って、コミュニティ茶屋をオープンするとおなじみの村民の方が一人二人と集まってきてくれました。あっという間に、準備した椅子が足りなくなり、野田村の社会福祉協議会から急きょ椅子を借りることになりました。また、プレーパークにも開店と同時に、多くの子どもたちが集まってきて、あっという間ににぎやかになりました。

コミュニティ茶屋では、顔なじみの野田村の村民の方とボランティアの市民や学生がご家族の話や最近の身の回りの話など、話の花を咲かせていました。また、にぎやかな茶屋の様子をみて、お買い物に来た村民の方も遊びに来てくれました。

プレーパークでは、就学前の児童から小学校高学年まで多くの子



茶話会の様子



プレーパークの様子

どもたちが遊びに来てくれました。プレーパークで用意したゲームやかくれんぼなど、元気いっぱい遊んでいました。11時頃からは、みんなで棒パン作りをしました。長い竹の棒にパンの生地をまいて、炭火で焼く棒パン作りは子どもたちに大人気で、準備していた生地が足りなくなるくらいでした。炭火でパンを焼く子どもたちの真剣な顔がとっても印象的でした。

コミュニティ茶屋とプレーパークは正午過ぎに

終了し、午後からはお片づけのチームと野田村の社会福祉協議会から依頼があった引越し後の仮設住宅の清掃作業に分かれて活動を行いました。すべての活動は14時30分に終了し、いつもより少し早めに野田村を後にしました。

帰りのバスの感想では、「とっても楽しかった」「いろいろと不安もあったけれど、多くの野田村の方が来てくれてうれしかった」「棒パン作りがとっても楽しかった」などの感想と、「ブルーシートなどの準備や椅子が足りなかった」「お湯をなんとかしてほしい」など沢山の反省点のご指摘もありました。

はじめてのことで準備不足な面も多々ありましたが、多くの子どもや村民の方が来てくださったので、大変楽しく充実した一日でした。また、「このような茶屋がほしかった」、「おかげさまで久しぶりににぎやかな市日」だったという村民の声もあり、開催してよかったとしみじみと思いました。大変楽しく、笑顔いっぱいの一日でした。

(担当:李永俊)



棒パン作りの様子

〈活動報告〉岩手県野田村の支援・交流活動報告(2016年7月16日)

活動の概要説明については今回は2度目であり、前回は参加していたメンバーが説明して下さったため内容は分かりやすかった。流れもレジュメにしっかりと記載されており把握しやすいものであった。ただ、グループ分けの際に口頭での説明と

なってしまう、どのグループに何人が必要で、誰が統率するのかが理解しにくかったので、次回の活動では改善の余地があると思う。活動時間は十六市が比較的早く終了したため時間に余裕があった。余った時間は子供たちと遊ぶなど有意義に使えた



道の駅おりつめでのチーム弘前

ので比較的良かったと思う。全体を通して良かった点としては、一般参加の学生や市民の方々が自分たちで考え、臨機応変に対応しているところが良かった。また、何度も野田村に訪問しているため市民の方々は住民の方々との距離が近く、市民の方が訪問しやすい環境づくりが十分になされていた。初参加の学生も市民の方に積極的に話しかけていき、飽きさせないような工夫がなされていた。また提供する商品名をサンドイッチ形式に

して明示していたため、どんな商品があるのかすぐに分かり、注文された商品をポストイットにして記入する事で他のテーブルの商品と混同する事もなくスムーズに提供することが出来た。棒パンでは生地が絶妙な硬さであったため棒に巻き付けやすく、量も丁度良かった。改善点としては、先にも述べたが最初の情報共有の際にグループ分けの詳細をレジュメに追加する工夫の余地が残されていたと思う。棒パンについては材料搬入が遅くなり作業開始時間が遅くなってしまったので次回はもう少しスムーズな行



賑わうコミュニティ茶屋



棒パンの生地作り

動の必要を感じた。また粉をこねる作業が思いのほか力作業であるので女性だけでなく、男性も人員として配置した方が良い。十六市のブースについての反省点はテントに張り付けた看板である。看板の見栄えが裏から見ると悪いので模造紙を貼って見栄えを良くするなどした方が良い。またコンロの準備の際に手が少なからず汚れてしまうので、しっかりと軍手の着用を徹底していくよう次回は気を付けていきたい。衛生面に関しては石鹸を用意しておいた方が良いと思う。水はあったが石鹸がなく不十分さを感じた。他には事務局メンバー間の意思疎通に時間が掛かってしまい、問題解決に取り掛かるのが遅くなってしまったので逐一ケイタイを確認しすぐに行動を起こせるよう準備しておく必要がある。帰りのバス内では市民の方々からの疑問に答えられず困らせてしまったので、何を聞かれても大丈夫のように次回からは情報収集をしっかりとしていきたい。全体を振り返ってみると、もうすでに一度活動しているため今回は比較的スムーズな進行が出来た。最後の感想交流の時間ではほとんどの参加者が満足げな感想を仰っており、初参加の人たちもまた参加したいとの前向きな回答をしてお楽しみで頂けたと思う。野田の村民の方々は自分たちの訪問機会が減少したことで悲しんでおられたので、回数が少なくなった分一回の訪問での交流の密度をあげ少しでも楽しんでいただけるようにこれまで以上の努力の必要性を感じた。(担当:李永俊)



大人気の棒パン焼き



プレーパークの様子



和気あいあいのコミュニティ茶屋

野田村夏休み宿泊学習会・活動報告(2016年8月11日、12日)

8月11日(1日目)

本日の活動は、野田村での宿泊学習への参加です。野田村の小学生達と弘前大学の学生が1泊2日で様々な活動を行います。野田村からは野田小学校の児童38名、弘前大学からは11名の学生さんの参加申し込みがありました。また、今回の活動では、NPO法人スポネット弘前の鹿内葵さんに、総合コーディネーターとしての同行をお願いしました。

子供達は学生さん達と一緒に総合センターでたくさん体を動かしました。この活動の中で最も子供達が夢中になったのは屋外に場所を移しての火起こしです。いくつかの班では下に敷いていた板に穴が開いてしまうまで、ひたすら火起こしをしていました。

その後、班ごとに分かれてLight up Nipponの会場へ向かいます。にぎやかな会場の雰囲気と食事を楽しみ、最後の花火が終わると宿泊先のえぼし荘へ。楽しい一日でした。



火起こし体験に夢中

8月12日(2日目)

2日目は朝6時に起床、6時半からラジオ体操を行い、その後に朝食。そして現地コーディネーターの貫牛さんの指示のもと「野田村の魅力再発見プログラム」に取り組みます。これは、えぼし荘からチーム北リアスの事務所まで、12.2kmの道を歩く活動です。

幸いな事に晴天に恵まれ、楽しく山道を歩きました。途中、平谷観光農園では、冷たいジュースが用意されており、たいへんありがたかったです。

山歩きの後には、北リアスの事務所で楽しいバーベキュー。おにぎり、肉、野菜、ホタテ、焼きそばと贅沢な食事になりました。

14時には子供達を総合センターの前まで送り宿泊学習は終了となりました。この活動に参加してくれた子供達に感謝します。また機会がありましたら、是非、お会いしたいと思っています。
(担当：小谷田文彦)



歩きながら話したり歌ったり

〈学習支援ボランティア〉「みらい」学習支援事業活動報告

青森県立子ども自立センターみらいは、青森市にある児童自立支援施設です。小・中学校での正課の授業のない毎週土曜の午前中、みらいに赴いて入所している児童(小・中学生)の学習支援を行っています。

この活動は、入所児童が学習内容を理解して、「分かる」ことの実感を得、それによって自己肯定感とともに学習意欲も高まるように、二重の意味で学力向上を目指すものです。同時に、学生が「お兄さん・お姉さん」的な存在として接することで、入所している児童への、学力向上だけではない効果も期待されています。

現在は、対象児童数に合わせて学生ボランティアが数名参加して学習支援をしています。今後は、運動会など施設の行事のお手伝いにも参加する予定です。



〈派遣事業活動報告〉遊歩道賑わい祭実行委員様からの活動報告 2016年6月4日開催

遊歩道賑わい祭実行委員会 事務局 對馬 寛 氏

弘前大学のボランティアの皆さんには、大変お世話になりました。集合していただきから、雨もぱらつく中、会場の設営や待機中も笑顔で頑張ってくれました。また、写真撮影も担当がいなかったのが、積極的に引き受けていただきました。また、会場が盛り上がる中での控え室の管理など長丁場を持ちこたえてくれました。終了後も、会場撤収などの力仕事からごみの収集まで協力いただき、おかげさまで、無事に盛況のうちにイベントを終えることが出来ました。どうもありがとうございました。



演奏の様子



たくさんの立ち見のお客様

〈活動報告〉市民ボランティア講座「熊本地震現地調査」

弘前大学ボランティアセンター「平成28年度第1回市民ボランティア講座」を開催しました。

当センターでは、ボランティア活動の実状やその重要性をより多くの市民や学生の皆さんに理解していただくために、年に2回から3回の市民ボランティア講座を開催しています。

平成28年度第1回市民ボランティア講座は「熊本地震現地調査 ボランティア活動状況報告」というタイトルで平成28年6月1日(水)に本学の校内で開催されました。

同講座では、平成28年4月14日からの熊本地方を震源とした地震による現地の状況、ボランティア活動の状況について

の報告が行われ、市民・学生・教職員を合わせて30名が参加しました。大河原隆センター長から開催の挨拶の後、津島太陽氏(本学医学部医学科1年)から現地での活動について報告が行われ、活動した経緯や、支援物資の中でボールやシャボン玉等の子どものおもちゃが想像していた以上に被災した方々に喜ばれたエピソード等、現地での様子が伝えられました。

引き続き、渥美公秀氏(大阪大学大学院人間科学研究科教授・NPO法人日本災害救援ボランティアネットワーク理事長)から「熊本地震活動報告」が行われました。渥美氏は1995年の阪神・淡路大震災から災害ボランティア活動に参加しており、講演では「ただ傍にいて、立ち去らないこと」、制度や物ではなく「被災者中心」の支援をすること、「声な



大河原センター長による開催挨拶



会場の様子

き声に」耳を傾けること、メディア等の「注目が集まらなくても」支援すること、「支援から交流、そして、復興へ」等、活動する上で大切にしていることや、現地での活動、直面した問題点について具体的に述べられました。

質疑応答では、熊本に知り合いがいるという方からの現地の様子を伺う質問や、ペットへのケアや飼い主への支援について等、多くの質疑応答がありました。

閉会の挨拶では、李永俊副センター長(人文社会科学部教授)から熊本地震発生後の弘前大学ボランティアセンターの活動について報告があり、一時的な支援だけでなく継続的な支援を検討していきたいこと、「忘れないこと」の重要性について述べられました。

市民ボランティア講座については開催が決まり次第弘前大学ボランティアセンターのホームページでお知らせし、市役所、弘前市ボランティア支援センターなどではチラシを配布いたします。

参加は無料です。みなさんご参加をお待ちしております。



講演を行う渥美氏

〈活動報告〉熊本地震への募金活動

弘前大学ボランティアセンターでは平成28年4月18日から熊本地震への支援金募金活動を始め、大学内、弘前駅前、弘前市街などで活動し、これまでにのべ83名の学生と市民の参加がありました。募金の合計は195,409円(平成28年10月1日現在)となっております。

これまでに協力くださいました方々に深く御礼申し上げます。

10月22日、23日の総合文化祭でも協力を呼びかけ、ボランティアセンターに募金箱を設置いたします。

引き続き、皆様のご協力宜しくお願いいたします。



JR弘前駅前での呼び掛け



学内での募金活動

〈お知らせ〉平成28年度弘前大学総合文化祭

平成28年10月21日(金)から23日(日)の3日間、総合文化祭が開催されます。

ボランティアセンターでは昨年、学生事務局による活動報告と野田村の物産販売、カフェを運営しました。

本年も手作りの掲示物やプロジェクターを使っの活動報告、野田村の特産品販売、アイスクリームやコーヒーを提供するカフェを開く予定です。

場所は弘前大学学生会館2階のボランティアセンターです。

文化祭は学外の方々に広く弘前大学を知って頂ける機会です。どうぞお気軽にお越しください。

学生事務局ってなに??

現在、4年生1人、3年生3人、
2年生6人の計10人で活動中!
歴代のOB・OGの先輩との
交流もあります!

みんな仲良しで
楽しいですよ!

毎年、学祭に出店
しています!



第4回弘前城リレーマラソンに出場しました!

学生事務局 代表 教育学部3年 垣内 雅仁

こんにちは!

私たち学生事務局は、弘前大学ボランティアセンターの学生運営組織として活動しています。岩手県野田村などでのボランティア活動を実施するにあたり、企画・準備・運営等をおこない、Facebookやblogでの活動紹介・広報活動もしています。ボランティアに深く携わりたい方、自分の視野や人脈を広げたい方、大学生活を充実させたい方…私たちと一緒に学生事務局として活動しませんか?

興味のある方はコチラまで!

疑問・質問…何でもどうぞ!

⇒学生事務局メールアドレス huvc.stu@gmail.co.jp

弘前大学ボランティアセンター副センター長・李永俊

編集
後記

災害は予期しないときに、想像を超える力で我々を襲ってくるものです。8月30日から31日の未明にかけて、岩手県と北海道に台風10号が上陸し、多くの被害をもたらしました。東日本大震災以来継続的に支援・交流活動を行っている岩手県野田村でも大きな被害がありました。また、野田村の周辺の久慈市、岩泉町では大雨と高潮により、川が氾濫して多数の犠牲者と床上浸水など深刻な被害に見舞われました。

当センターでは、現地の社会福祉協議会や野田村と一緒に活動している「チーム北リアス」のメンバーからの報告を受けて、9月2日には現地に先遣隊を派遣して、被災の状況や支援活動の可能性を探りました。その後、9月4日(野田村、久慈市)、10日(久慈市)、17日(久慈市、岩泉町)、24日(岩泉町)と緊急支援活動を行っています。また、「岩泉、寒くなる前に」を合言葉で、一日も早く復旧ができるように全力を尽くして、お手伝いをさせていただきつくりです。

現地では、ボランティアニーズに対して3割にも満たないボランティアしか集まっておらず、ボランティア不足は深刻な状況です。幸い、弘前から岩泉町までは片道3時間半でぎりぎり日帰りの活動が可能な距離にいます。みんなが安心して冬を迎えるためには、何より皆さんのご協力が必要です。当センターでは10月29日(土)に緊急支援バスの運行を計画しています。ぜひ、皆さんのご参加をお待ちしております。よろしくお願いいたします。

弘前大学ボランティアセンター (HUV)

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

TEL: 0172-39-3268 FAX: 0172-34-5251 E-mail: huvc@hirosaki-u.ac.jp